早期景気観測調査　新潟商工会議所管内　１０月分　各業界からのコメント

◎建設業

・今後は民間の大型工事受注があり、良くなると思う。
・建材の値上げが 10 月に入って出てきている。鉄材は 10%前後、今後 20～40%まで上昇懸念がある。アルミ材は来年 4 月以降値上げの見込み。
・コロナ第 5 波の終息に向かっている。規制解除やワクチン接種が進み、経済活動が世界的に進んでいる中で、食料品をはじめガソリン価格の高騰が始まっており、石油製品などの価格も値上げや品不足がおき、仕入価格の高騰が懸念される。
・米中摩擦、燃料高騰、半導体不足などの影響で引続き建設資材の高騰気配があり、早め早めの仕入予約が営業の鍵。
・ウッドショックの影響で木材が上げ止まりしていることから原価の調整が難しくなっている。ただ、今のところ昨年の反動需要が旺盛なため売上は安定している。
・どん底だった昨年に比べると、少しずつ受注状況も上向きになって来ている。ただし、コロナの影響で海外生産の器具の納品遅れが出ている。世界的なコロナ感染状況も収束に向かう事を願う。
・コロナウイルスの影響で発注先の業績も悪化し、工事が先送りとなっている。元に戻るにはもう少し時間がかかりそう。
・9 月 30 日で都市圏緊急事態宣言解除なるも、不要不急の出張は引続き慎重を期している。会議形式もＴＶ会議が普遍化。
・8 月に実施したイベントは新型コロナウイルスの影響で、その 3 ヶ月前に行ったイベントの半数以下の実績となった。

◎製造業

・原材料の高騰が受注済みの工事に転嫁できない場合が多く、今後採算が悪化する可能性がある。
・原材料の長納期化には相変わらず気を使う状況。仕入業者からは納期確約できずとの回答も多くある。
・主力の酒造タスク関係が補助金の影響で去年よりは好転している。
・半導体関係も動きが活発になってきたが、不安定な面もある。材料費の高騰は続きそうで、採算に影響も出てくるだろう。
・宿泊・飲食関係からの受注の落ち込みを都心のオフィス需要によりカバーしているが、一過性と思われる。
・ワクチン接種などで収まりつつあるコロナは社会生活の仕方などいろいろ変えてしまったが、新たな経営意識を持って進まなければと思い、スタート地点に立ったような心境である。新政権に期待している。

◎卸売業

・新型コロナウイルスの影響による原材料の高騰がとまらない。
・年内更なる値上げ発表あり。海外製造のものは欠品、納期遅れで、支障が出てきている。
・公共工事の発注時期、特に日本海側は土木工事を行うのに下期は不適である。単年度予算による弊害である。

・政府による規制も解除され、外食等の需要も徐々に回復することが期待できるが、コロナ前の状況に戻るにはまだ時間がかかる。
・前年同月にスポット売上があった関係で前年同月比では悪化したが、2 年前、3 年前との比較では同等の売上高・利益となっている。
・公共資材卸売の為、冬期前の駆込み受注増で多忙。

◎小売業

・新型コロナウイルスによる影響がある。
・ビルメンテナンスでは社員の半数以上がパートであるため、今月からの最賃引き上げの影響がかなりある。
・コロナも落ち着いてはきているが、値上げ交渉は難航している。
・昨年は、9 月から売上が上昇傾向であったが、今年は来店客及び FAX・電話等の注文がめっきり少なく、先行きに不安を抱えている。
・EC サイトを作成して実際にこれから稼働するが、売上のカバーをするにはまだまだ時間が掛かりそう。
・コロナによる非常事態宣言の影響は大きかったと思うが、解除されて一気にコロナ前のような行動をとればクラスターが発生するため、飲食を伴う会食は自粛している。
・最近、自分の近辺でもコロナにかかった方をお見受けするようになり、濃厚接触者になると 2 週間自粛となる為、大胆な行動ができず歯がゆい次第である。
・全国の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除され、感染者も大きく減少する中ではあるが、新潟の県民性から現時点では、大幅に来店客数が増えていないものの、今後は緩やかに消費が増えてくると予測している。一部の回答で「変わらない」としているが現時点のもので、感染拡大しないことが前提で今後、売上、仕入関連は、上昇する可能性が高いと考える。
・ブライダルも今月少し回復し、ブライダル向け洋花も需要が高まった。ハロウィンに向けてかぼちゃなど秋らしい商材の販売が増える見込みである。

◎サービス業

・全国的な規制が解除されたが、暫くは人流の増大には期待できない。年末に向かい、じわりとエネルギーが高騰し始めた。雇調金が止められると経営自体が止まることが考えられる。最賃見直しはボディブローのように効いてくると考えられる。
・昨年の 10 月、11 月は Go to Eat、地域のお店商品券の貢献で良好だった。今年は、Go to Eat の販売が終了しているため、昨年より伸びが期待できるか疑問である。
・雇用調整助成金の影響なのか雇用の流動性が低迷している。
・食材の価格が上昇しているため原価が上昇し、最低賃金の上昇、社会保険等の上昇が追い打ちをかけて利益を圧迫することが予想される。設備投資に前向きになる要因が少ない。
・原油価格の高止まりによる影響が長期化しており、今後の動向を注視している。
・仕入れ単価上昇・最低賃金引き上げ・コロナ禍による売上減少。
・特に市内中心部は人が戻ってこず、土日より平日の方が売上が良いという逆転現象が起きている。良好な売上向上策を取っても効果は微々たるもの。何をすればいいのか分からないというのが正直なところ。

・新型コロナウイルスの影響によるものが現在弊社の不況の直接の原因とは思わないが、それが根源となっているのか、得意先が比較的新規事業への展開を見送ったり保留にしていることがここ数ヶ月の売上低下となっている。
・巷では会合やイベントなどが少しずつ復帰しているように見える。それに伴って全体の流れも上向きになり、売上の上昇へとつながることを期待する。
・ウッドショックや原材料の高騰によりじわじわと利益を締め付けているため、今後の価格見直しについても早急に対策を練り対応していかなければならない。
・毎月の仕事の予定がその都度決まり、次月の予定は次月に入って決まっていく状態で、今月は売上が良くても新型コロナウイルスによる影響も重なって来月はどうなっていくのか不安である。
・少しずつ人が動いているように感じるが、以前のようにはいかないのが現実。
・職員は県外の方との接触、県外への渡航などもいまだに自粛している。
・時短営業の癖なのか、外食をしても早く帰る傾向が見受けられる。なんとか頑張るしかない。
・県外交流が全く閉ざされており、収入の確保には限界がある。緩和されてもこの流れは変わらない。
・全国の緊急事態宣言が解除されたことに伴い、テレワークの比率も下がってきたため仕事がやりやすくなったが、人が動き出したことによって、再度の感染増加に繋がらないとも限らないため、未だ注意が必要だと思う。
・緊急事態宣言が解除となったことで人流が増えてきており、お客様の回復を期待できそうな気配にはなりつつある。
・これから年末に向けて光が見え始めたと信じたいが、急激な人流の増加で新型コロナの第 6 波が考えられ、人々の生活にニューノーマルが浸透していくことが必要と考える。